

(4) 教育推進計画

研究主題

○川地中学校研究主題

本質的な問いの視点を取り入れた主体的・対話的で深い学びのある授業づくり
～学びや仲間とのファシリテートを通して～

1 本年度の取組の重点

- (1) アウトプットとフィードバックを重視した教育活動の展開
- (2) 語彙力を向上（語彙シート活用）させ、読解力や思考力及びコミュニケーション力を高め表現力を身につけさせる取組
- (3) 個別最適な学びのためのICT機器の効果的な活用
- (4) 「学区コミュニティ・スクール構想」と「地域学校協働活動」の推進に向けた取組
- (5) 小中・小小連携による通学への不安解消（円滑な接続）に向けた取組
- (6) 学校備品と予算を効果的に活用し、教育環境の充実を図る

2 川地中学校で身に付けさせたい資質・能力

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性
<ul style="list-style-type: none"> ・知識 ・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 ・判断力 ・表現力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働性 ・主体性

○特に身に付けさせたい力

知識及び技能	知識 技能	社会生活とのつながりを考え、各教科等で習得した知識・技能を身につけ、実生活で生かす力
思考力・判断力・表現力	思考力	よりよい課題解決に向け、必要な情報を活用しながら、多様な見方・考え方ができる力
	判断力	目的や場面、相手に応じて、調べたことや自分の考え、意見等を説明できる力
学びに向かう力、人間性	表現力	目的や場面、相手に応じて、調べたことや自分の考え、意見等を説明できる力
	協働性	他者とかかわったり協力したりしながら、課題を解決したり、自らの考えを広げたり深めたりする力
	主体性	夢や志を持ち、継続して自己の向上に努め、将来の生き方について考える力

3 主題設定の理由

川地中学校区では、「表現力」をベースとした主体的に思考する児童・生徒の育成を小中一貫として研究を進めている。特に中学校では、令和元年度から「アウトプット重視」として、目的や場面、相手に応じて調べたことや自分の考え等を表現する力の育成を研究している。

令和2年度からは、語彙シートやミニホワイトボードを発表、話し合い、振り返りの場面等に活用してきた。また、令和3年度からは、タブレット端末の導入に伴いICTを活用し、思考の深化、形成的評価等に生かし、授業研究や実践交流をすすめることができた。さらに、本質的な問いの視点を設けたことで、指導事項と活動を効果的に設定し、生徒に身につけさせたい力を明確化することの必要性を確認することができた。

課題としては、三次市学力到達度検査から教科の基礎的・基本的な内容を踏まえて、文章や資料を読み取り、読み取ったことや考えたことを表現することに課題があり、生活・学習意識調査から自己肯定感や自己有用感の低い生徒もいたり自分の思いや考えを相手に伝える力に課題がある。

そこで、今年度は、研究主題を「本質的な問いの視点を取り入れた主体的・対話的で深い学びのある授業づくり～学びや仲間とのファシリテートを通して～」として、問いの精選や精度を高め、主体的に学びに向かう授業

改善を図っていく。また、重点項目を、授業改善、対話、宿題及び自学習の改善とし、取り組んでいく。

4 研究仮説

アウトプットを重視（Input：Output=3：7）した授業実践をするとともに、本質的な問いの工夫及びファシリテートを軸とした言語活動の充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びとなるだろう。

5 研究推進の方法・内容

（1）主体的・対話的で深い学びのための授業改善（単元構想）

学ぶことに興味や関心を持ち、自己の将来を見通して、粘り強く取り組み、学習活動を振り返って次につなげる意識をもたせ、生徒同士の協働や教職員、地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めていく。そして、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら、知識を関連付けて理解を深めたり、考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、創造したりする学び。

①教材の提示の工夫や導入の工夫

②言語活動の設定や課題発見・解決学習の設定、体験的な学習の設定

③基礎的・基本的な内容の確実な習得と定着

④パフォーマンス課題の工夫や課題設定の工夫、問いの工夫

⑤タブレット端末やホワイトボードの活用、効果的な使い分け

（2）基礎的・基本的な内容の習得と定着

①習得と活用の両輪を位置付けた単元構想

②各教科の帯時間の活用や工夫、

③授業と連動させた宿題や自学習

④学習タイムやデジタルドリルの活用

（3）宿題及び自学習の改善

①授業と連動させた内容の出題

②生徒実態や生徒の習得・定着度合いに応じた出題の工夫や内容の指導

（4）アウトプットの充実

①自己表現を位置付けた言語活動等の設定

②振り返りの工夫、自己調整を意識した振り返りの実施

③語彙シート及び教科語彙シートの活用

④各種コンクールへの応募

（5）校内研修の充実

①職員研修での研究の方向性の共有

②授業や評価の実践交流を通じた課題や方向性の共有

③研究授業の推進と授業参観月間の実施

④各種調査やアンケートの検証と分析及び全体周知

⑤1人1枚の対話を重視した単元構想シートの作成

（6）ICTの活用と指導

①基礎的・基本的な内容習得や定着

②協働学習や言語活動での活用

③生徒実態の把握と個別支援への活用

④全校朝会でのICTスキルアップ講座

⑤情報リテラシー教育の推進

(7) 小中一貫教育の推進

- ①表現力（アウトプット）を重視した教育活動の推進
- ②9年間を見通した語彙シートの活用及び教科語彙シートの活用
- ③「学区コミュニティ・スクール構想」と「地域学校協働活動」の推進に向けた取組
- ④小中・小小連携による通学への不安解消（円滑な接続）に向けた取組
- ⑤特別の教科道德の推進
- ⑥小中合同行事の充実

6 検証方法及び目標指数

(1) 学力調査

- ①三次市学力到達度検査 全国平均以上
- ②三次市学力到達度検査 基礎・活用・記述の観点において市平均以上

(2) 学習・生活アンケートや振り返り（生徒アンケート：7月，12月，2月に実施）

- ①「毎日の家庭学習は，目標時間（1年生100分，2年生120分，3年生180分）以上やっている。」に対する肯定的回答80%
- ②「授業や生活の中で，相手に伝わるように説明したり自分の思いや考えを話したりしていますか。」に対する肯定的回答80%